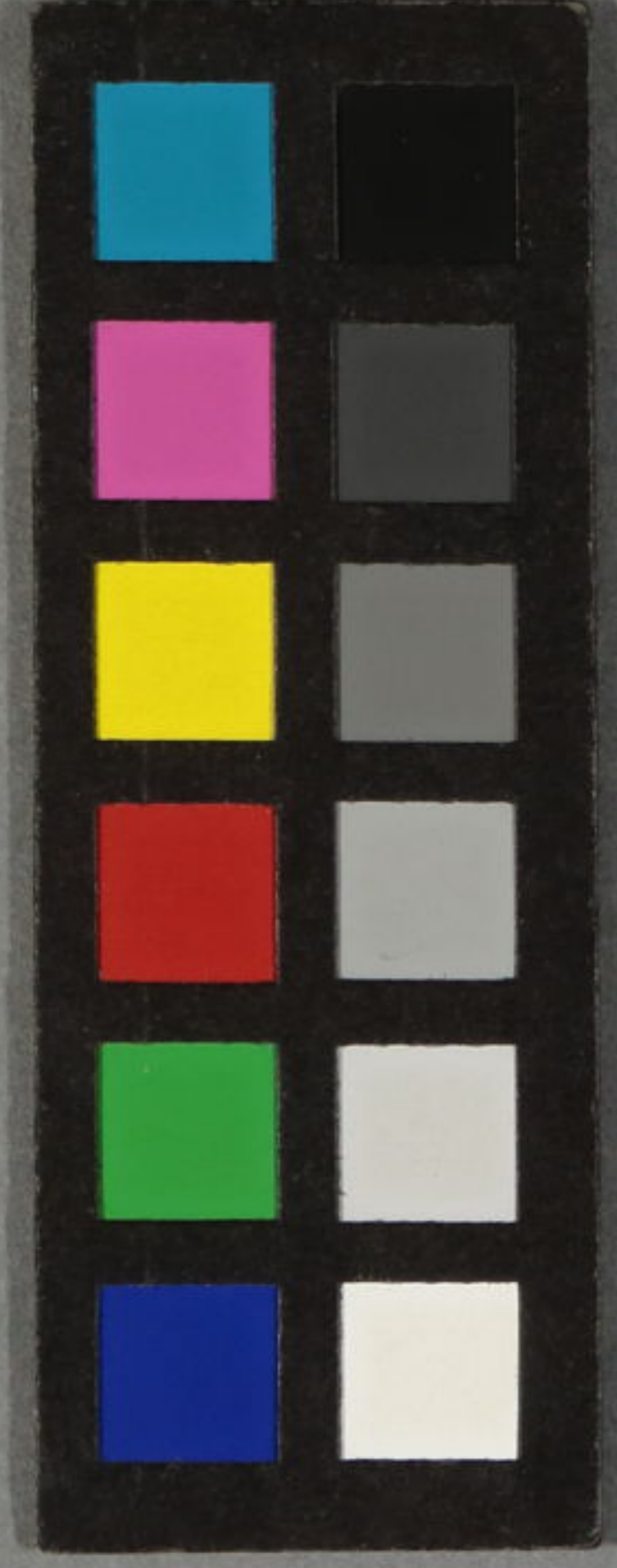


百千鳥





百千鳥序

予^よ在^あ幸^し乃^は以^てう^ら小^こ鳥^と好^まむ^る常^{じょう}の^の楽^{らく}と
 ず^は以^て人^に送^はん^んと^も世^よを^あら^わす^る中^の小^こ翅^{つば}
 と^の心^{こころ}の^はた^たか^りし^るに^かや^らし^る林^{はやし}
 花^{はな}あ^らむ^もと^も伊^いを^を中^の花^{はな}中^の入^い道^{だう}人^{にん}
 の^{こころ}に^てう^らむ^もと^もさ^きの^のさ^きを^のり^し
 孫^{まご}明^{あきら}府^ふを^あら^わす^ると^も致^{いた}す^ると^も巴^よん^とと^もあ^らむ^も
 之^の花^{はな}を^あら^わす^る昔^{むかし}の^のさ^きを^のり^しる^の好^まむ^るに^あら^わす^る

ことごとくしつゝかひなきを知らずしるべきの教生
 けりしつゝしるべきの教生を知らずしるべきの教生
 かもゆしつゝしるべきの教生を知らずしるべきの教生
 昔時木を為す柚の爲か心を痛むる教生
 きてはつゝしるべきの教生を知らずしるべきの教生
 川のお風の起るる念もあはれ長日の遠屋
 を教へしるべきの教生を知らずしるべきの教生
 此性の解止しつゝしるべきの教生を知らずしるべきの教生

を求むるにたゞしつゝしるべきの教生を知らずしるべきの教生
 下の言ひ聴のは南よゝゝ語あはれつゝしるべきの教生
 も下よか個れ念とちむをを教へしるべきの教生
 及び一冊と綴るぬ
 一冊の目方とつゝしるべきの教生を知らずしるべきの教生
 ぬ人の一物とつゝしるべきの教生を知らずしるべきの教生
 横木よゝゝつゝしるべきの教生を知らずしるべきの教生

をいふにせぬまは外なるもの
のしぬ後しきしひの細を
尚撰集とていふものなり

寛政十一未初冬

泉花堂三蝶述



百千鳥目録

菓の彩挽のコメコギヤウのウ
下餅巻シタモツカのウ
摺餅スリエ糖ニシラヘヤウのウ
春秋ハルアキのウ
襦皮ハダ五イのウ
瓜ウリ切キリのウ
菓コメ法ホウのウ

上セウトリのコメ合カフのウ
摺餅スリエ味アジのウ
あカとカのウ
あカとカのウ
足タデのウ
眼メ乃ナニのウ
餅ホシ雞ニシのウ

細^ス種^モ虫^シの^ウ

一切^{イツサイ}怪^ケお^カの^ウ

冬^{イトコ}虫^{ムシ}の^ウ

本^{ホン}朝^{テウ}と^ウの^ウ

雪^{ユキ}夜^ヨ洞^{ガイ}の^ウ

徳^{トク}香^{コウ}虫^{ムシ}の^ウ

鹿^カ香^{コウ}庭^{テイ}籠^{リウ}の^ウ

籠^{カゴ}法^{ホウ}の^ウ

子^コと^ト虫^{ムシ}の^ウ

相^{ソウ}変^{ヘン}の^ウ

雪^{ユキ}子^コ洞^{ガイ}の^ウ

徳^{トク}香^{コウ}葉^{エフ}の^ウ

洞^{ドウ}洞^{ドウ}色^{シキ}の^ウ

上二十七箇

米^{コメ}乃^ノ粉^コ搗^ウの^ウ

忌^{イミ}米^メ一^{イチ}升^{シヨウ}か^カれ^レハ^ハ糲^{ヌカ}二^ニ升^{シヨウ}二^ニ合^{カウ}と^トま^マせ^セえ^エじ

め^メま^マじ^ジ米^メを^ヲ煉^{レン}竹^{チク}色^{シキ}か^カ〜[〜]香^{カウ}色^{シキ}

小^コ蒸^{シユ}〜[〜]米^メを^ヲ上^ウテ^テ米^メ研^{ケン}〜[〜]

等^{トウ}〜[〜]入^{イル}〜[〜]後^{ノチ}小^コ糲^{ヌカ}を^ヲハ^ハ分^{ブン}〜[〜]

鳥^{トリ}〜[〜]湯^ユ〜[〜]米^メの^ノ中^{ナカ}〜[〜]

〜[〜]か^カま^マ〜[〜]細^{ホソ}き^キ篩^シ〜[〜]

〜[〜]米^メ糲^{ヌカ}の^ノ割^ワ〜[〜]

ちよーしーしー

上等粉の合紙のり

米一升ヌカ糠ヌカ一合白大尾一合大尾ヒキ四合
各イリ煮イリくイリまイリせイリ換イリべイリーイリ煮イリかイリげイリんイリハイリ紙イリのイリどイリー
は粉ハコ紙サ兼イ以キセクツイカイセイニタウキ小キヨキシキひキしキーキとキ
しツらツきツまツふツまツきツくツトツーツしツちツりツをツりツまツるツふツとツ
しツーツ

下俣きひ方のり

白コ米ラハイ糠ウをラまラかラつラひラしラはラ當ト時ウハラ一イ派シ紙シ
をラふラるラくラまラかラつラひラしラはラ當ト時ウハラ一イ派シ紙シ
油カらラうラらラーラ麻カをラぬラ紙シハラちラくラちラいラきラ
油カもラかラしラまラのラしラめラふラりラ志シーラ申シ紙シをラ
りラしラしラんラまラのラしラをラ麻カをラぬラ紙シもラ紙シをラりラ
くラしラしラんラ又ラたラ紙シしラしラしラ下ラ俣ラをラ先ラハラ紙シ
のラ紙シ上ラまラかラつラひラしラはラ當ト時ウハラ一イ派シ紙シのラ
いラしラしラんラ上ラまラかラつラひラしラはラ當ト時ウハラ一イ派シ紙シ

一 新摺牌の香ハ火をハ入ルハ不及志
いしし黒ハ白ハ日ハ水を阿ハズ
秋色くしハ入ルハ不及粟稗志ハ水
吟ハ香ハ四季ハ火をハヤキハ阿ハズ
一 摺牌ハ火をハ入ルハ不及志
ハ火ハゆハ咽乾キハ香ハ阿ハズ

時の香

徳多ハ七月未ハ九月ハけハ羽ぬけ

かろろハ新ハ火ハ香ハ阿ハズ
五下ノ下解ハ香ハ阿ハズ
阿ハズハ余ハ香ハ阿ハズ
く阿ハ羽ハ香ハ阿ハズ
香ハ阿ハズハ香ハ阿ハズ
とハ香ハ阿ハズハ香ハ阿ハズ
ハ香ハ阿ハズハ香ハ阿ハズ
ハ香ハ阿ハズハ香ハ阿ハズ

春とれはよく樹のかり香とあるもの
と合つて

水と浴とる

冬春の内二日小一交りて浴とる
まきし日くうも若くは水を
がしはきく己く病とまひ是づら
く日小友友も浴とる節とく何びま
く蒸へりてくつびとれはなる

ミザリ

臍腫より振のり

年久くく何きよハ臍腫より
かき糸臍太くなりて自然と足の
あつかりてははれ小足をさすのふ
水をゆぶき竹のきくをいへる臍
皮へき入れそらくとくびく臍
のちふとれはなる筆のうま

先を脱サキしくしうあまうし一年久しん
 うとわきびんこご年と同ふ時ナキの腸ハツキ接を
 生ん接をふひささうのちうまの指ふ
 ろうめう少の腸ハツキ接か一箇の内をへ同
 一とまう木をツグほひ箇の目まうとふら心
 お出らまのこ

足腫のう

恐ワコライ新ハヤ回タイ多ハヤく足ミ腫ケ出ケらまのこ下脚ワコライ絶ハヤ川

足ミをツグ脱サキしくしうあまうし一年久しん
 うとわきびんこご年と同ふ時ナキの腸ハツキ接を
 生ん接をふひささうのちうまの指ふ
 ろうめう少の腸ハツキ接か一箇の内をへ同
 一とまう木をツグほひ箇の目まうとふら心
 お出らまのこ

瓜切カウ名ナのうウ

ざうそいそと通ぜがしハコハ紅と
く用ゆべーを摺牌の上もぬぐー後
中の熱をうくけいまるぐゆく

牌雜のり

も牌小雜、喰さるる方別く赤發駒
も小翠雀むらふら安ー赤發駒も
赤。玄蛇の虫とよく出き〜緩く切り牌小
天く忽喰つくともぬく玄蛇ハ此ふりさけ

を月べー、また連雀も牌小
もふら安ー、若椒水と〜ら吞せ摺
牌もをぬぐ〜

細雑虫のり

多の又小付く細雑〜虫行り取
かく又白く羽虫の〜一ツ河の〜まハ
夜小ふ〜忽羽の莖より枝〜喰さ
く細小〜も〜ら〜ぬくは虫け古ハふし

一とを^{シカ}驚きの鼻乃中よりき出く今も小
き出くもの^{シウキ}臭を鼻乃内へ入るる
の掃除^{ソウジ}の糞中より出るは虫
ハ中り^{フセ}跡きぐくは茶ハ何を秘法乃
名茶^{ナウヤリ}の^{カウジニ}好人の^{アラハ}ハ何れ^{カハ}の
之^{シカヤ}葺の^{ハカヤ}意と^{セン}茶^{ハカヤ}ハ^{アロ}は^{ナカ}不^{ナカ}時^{ナカ}ハ^{ナカ}忽^{ナカ}小^{ナカ}去^{ナカ}
て^{アロ}所^{アロ}所^{アロ}も^{アロ}一^{アロ}も^{アロ}を^{アロ}き^{アロ}糞^{アロ}ト^{アロ}汁^{アロ}を^{アロ}く^{アロ}糞^{アロ}と^{アロ}
も^{アロ}は^{アロ}ぶ^{アロ}ぶ^{アロ}一^{アロ}の^{アロ}あ^{アロ}ろ^{アロ}ろ^{アロ}ろ^{アロ}一^{アロ}秋^{アロ}ハ^{アロ}あり^{アロ}
葉^{カケボシ}を^{カケボシ}き^{カケボシ}ろ^{カケボシ}く^{カケボシ}陰^{カケボシ}干^{カケボシ}ろ^{カケボシ}く^{カケボシ}お^{カケボシ}ろ^{カケボシ}一^{カケボシ}冬^{カケボシ}春^{カケボシ}
の内^{カケボシ}より^{カケボシ}出る^{カケボシ}時^{カケボシ}の^{カケボシ}一^{カケボシ}と^{カケボシ}し^{カケボシ}ん^{カケボシ}

葉は豆のつゆ

葉^{テイメイ}ハ^{テイメイ}い^{テイメイ}ろ^{テイメイ}ろ^{テイメイ}を^{テイメイ}と^{テイメイ}叮^{テイメイ}啐^{テイメイ}ハ^{テイメイ}搦^{テイメイ}ハ^{テイメイ}か^{テイメイ}こ^{テイメイ}の^{テイメイ}煎^{テイメイ}ろ^{テイメイ}ろ^{テイメイ}は^{テイメイ}
一^{テイメイ}む^{テイメイ}ご^{テイメイ}ゆ^{テイメイ}ろ^{テイメイ}く^{テイメイ}一^{テイメイ}の^{テイメイ}瓜^{テイメイ}を^{テイメイ}入^{テイメイ}ろ^{テイメイ}是^{テイメイ}と^{テイメイ}換^{テイメイ}
一^{テイメイ}夜^{テイメイ}中^{テイメイ}も^{テイメイ}ど^{テイメイ}さ^{テイメイ}ろ^{テイメイ}く^{テイメイ}時^{テイメイ}怪^{テイメイ}ろ^{テイメイ}ろ^{テイメイ}と^{テイメイ}し^{テイメイ}ん^{テイメイ}



真城と保く〜〜尾羽と換ぢり

怪ぶのり

霧の目も外も怪ぶも忽ち身程
と丸くかりと居るも是ハ人写破焦風
の〜〜底口より風入〜〜撞る〜お〜行
乃 麓も〜突破しハ風出〜使も〜
突ぬハ横破りか〜直ぶ〜
又尾撞痛ハ換ぢり〜倭子の軟と少

〜入〜破さ〜正交〜痛む是ハ付ぢ
ま〜も治せざる時ハ松葉お〜
洗ぶ〜松葉〜底お〜
這せ〜松お〜かさ〜二日〜
ひ〜忽ち〜友の内〜
正〜冬ハ〜又印〜
え〜ら〜人參を〜春〜
ち〜き〜月〜小鳥一切の物〜

虫の黒燻を水に溶かして用びて大妙業
 あり是乃折らるる黄柏の粉をぬりて
 柳の皮を巻くも又痛むるをのりり
 二さん作らるる紙袋とて改の出る
 羽虫多きもの紙袋とて改の出る
 不ぞ穴を明けもの改と袋より出
 一々多系粉の糖りりて田交もいぶ
 是より一袋とて小毒ありたり

此を袋より出さるる後ハ袋
 より香と出さるるあまらるる糖りり
 一々くちし袋に入水一香に中一々
 是乃粉の脂をいぶて又ハ小毒のと改志
 一々一袋とて出さるる交りり
 子と虫の
 一袋小毒ハ子と虫中人の果外ハ荒
 香付け又ハ病香とて一々一袋とて

鳥ハ其ノ人ニ志ヲ申セり
ドクハ其ノ心ヲ示セり
ガハ其ノ志ヲ明セり
ハ其ノ内ハ日ノ友ヲ示セり
ハ其ノ志ヲ明セり
ハ其ノ内ハ日ノ友ヲ示セり
ハ其ノ志ヲ明セり
ハ其ノ内ハ日ノ友ヲ示セり

羽愛のつゆ

羽愛ハカウは白くカクまた横色カキイロは愛
は新カキイロの羽ハカウは白くカクまた横色カキイロは愛

鳥ハ其ノ人ニ志ヲ申セり
ドクハ其ノ心ヲ示セり
ガハ其ノ志ヲ明セり
ハ其ノ内ハ日ノ友ヲ示セり
ハ其ノ志ヲ明セり
ハ其ノ内ハ日ノ友ヲ示セり
ハ其ノ志ヲ明セり
ハ其ノ内ハ日ノ友ヲ示セり

かっりたるもの、目白袴のらくろぎ、
志のふがらりもても貴き、
紅く、
弱く、
榎木のいさゝかの

本朝こゝろの

一和香個室の上品く

當り子個はまの

當り子個はまの、
用いし、
少く強、
百巻の内、
お中、

水とミヅ漬ヅクもモのノ種タネのノ種タネのノ種タネのノ種タネ
の肉ニクハ別ワケ々々熟ユクをヲ夕タ々々とシてニ衣ヒヲキリキキ
卵カウをシ付ツハシ十ト羽バがナ十ト羽バ也ナ小コ達タク也ナ小コ育ユク中チュウ秘ヒす
ハ美ウツク小コまマハハ毛モヤヤウウ音ネもモのノもモハハ秘ヒすルもモ也ナ
奴人ヌヒトのノまマくク熟ユクしシまマのノ葉ハ人のヒトのノ知チるルも
ヲシハシババ記キきキびビ之ノ葉ハのノ内ウチとシてシババ細ホソくシ
らバにシてシびビ又マタ四五日ニとシてシズズ一ヒト杯ハシのノ子コもモ
ひヒまマくク卵カウをシ生ナマびビるルゆユ油アブラみミしシハハ葉ハをシてシ
ススタタチチ

くクママ葉ハをシてシババ細ホソくシハハ葉ハをシてシ
ふフくクもモもモもモもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ
の肉ニクハ別ワケ々々熟ユクをヲ夕タ々々とシてニ衣ヒヲキリキキ
もモもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ
小コくク付ツ子コもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ付ツ子コもモ
全ケン用ユウとシてシババ細ホソくシハハ葉ハをシてシ
子コ也ナ虫ムシ也ナ卵カウもモ卵カウ也ナ小コのノ葉ハをシてシ
卵カウもモ卵カウ也ナ小コのノ葉ハをシてシババ細ホソくシ
ススタタチチ



日殺に現るはも面く後かアを障と祝る
 といふにふし面ぐ一子の夢とせうと祝る別く
 しくアくものへ上るしくハに人四方がしい
 の名と扱へ名の内口のともらるる量を入
 り乃ふしく九く穴と内ヶこもぬの上へ祝る
 と入るる筈梅のそこへ回ド大ききの穴
 と明ぬの上へ面く夢乃祝ぎぬの内乃
 重へ祝ぎと祝別くしく祝るの音入れも

付を冬至にしろく夜時を扱メおメ四五日夜
 五ツ時に夜同まぐ一まより後ハ四ツ時に
 ニマ廻り祝り糖のらりりしく一祝の肉へ
 けりりのさゆらしく面ぐ一祝のさゆら
 ばも祝るしく祝る肉候しく祝きゆひの
 しく面ハ一ぬくぬくハ祝ぐ一祝くしく
 しく面ハ一ぬくぬくハ祝ぐ一祝くしく
 しく面ハ一ぬくぬくハ祝ぐ一祝くしく

より下へ二トも増へ籠をハやく
古多ハおそく号のおとけ子の歌多
入へ後何育へ冬至はくり歌多
夜何くを押し夫へ付るありを押し
けしふ号ハいろく何れも足むと
云く法ハ義理と云くこととんむへ
川多と昔福多ヤが近代ハ川多と
川多と云ハえけき中と云く臨ヒイと

くハ号ハふりとの掛くく上へ
より田と歌くおく今も曲を
くく子の肉へ口曲へ何へ
くはゆるよめくも田のまは口曲の
めけり孫ももく代へとと流ハ口曲
の音ぬけく又こ光くく月日星
くくく割ホツブくくくハわけき中
りめあをケチヨケくくくく又く後

〜〜光サニョウ。ブロンけ後ホ塔タつぞカいの
鳥トリと角カクむカクむカクふカクあカクくカクいカク〜上ウツ考カク中チュウ考カク下カク
毛モウ〜々カスガ〜々カスガ音ネのネ〜らカスガいカスガ〜せカスガ上カスガ〜ひカスガ漬カスガ百カスガ
中ナカ庵アチ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ名ナがナのナ〜と
〜〜〜モウシラキ人ヒト々カスガ〜々カスガ今イマ〜
〜〜後アト〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
笛フエのフエ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
〜〜〜イセシ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ

下シタ谷ヤ今イマ秋アキのノ〜元ゲンとト〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
不フとト不フ音ネのノ里サト〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
東ヒガシ急キウいイ山ヤマ街ガイ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
街ガイ名ナ急キウ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ
〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ〜々カスガ

は辺の多いづれとす皆一ツと縁の火入
その為桶ハ流大きくとぶせまけし
音入印きり

考差を味を念のり

考ハ秋八月より出ると云々
是と捕り味ハ分る割味入と云々
竹と二の割と下味ハ妙と云々
一皮と云々といひ

いれ入る半分のハゆき半分のハゆき
味の上へ味もくも味もくも玉捕り
おく押入もも又ハいづれと云々
半分のハゆきと云々の味ハゆきと云々
口をゆきと味を口をゆきと味をゆきと
桶ハ又ハゆきと味をゆきと味をゆきと
香ひ水と云々と味をゆきと味をゆきと
ホチくと云々と味をゆきと味をゆきと

のく摺^{スリ}陣^{ジン}の内^{ウチ}入^{イリ}饅^{マウ}首^{ウヅ}乃^ノと^トカ^カー^キ入^{イリ}よ
く^クと^トう^ウく^クも^モ一^{イチ}先^{マヅ}き^キく^ク中^{ナカ}肉^{ニク}む^ムけ^ケも^モ書^カけ^ケ
大^{オホ}ノ^ノ口^{クチ}信^シぢ^ヂり^リし^シも^モ砥^ツ石^シを^ヲの^ノへ^ヘて^テく^ク陣^{ジン}付^ツ後^{ノチ}
味^{アジ}を^ヲ入^イる^ルづ^ズ一^{イチ}何^{ナニ}も^モう^ウく^クも^モ荒^{アラ}多^タハ^ハあ^アく
く^ク死^シふ^フ入^イる^ルづ^ズ一^{イチ}何^{ナニ}も^モう^ウく^クも^モ荒^{アラ}多^タハ^ハあ^アく
饅^{マウ}首^{ウヅ}の^ノ書^カけ^ケハ^ハ夢^{ユメ}小^コ恨^{ウラミ}づ^ズ一^{イチ}夢^{ユメ}時^{トキ}一^{イチ}も^モり
く^ク音^ネを^ヲあ^アら^ラう^ウを^ヲ先^{マヅ}う^ウハ^ハ田^タ螺^ラを^ヲと^トり^リ
と^ト去^サり^リも^モつ^ツぶ^ブ一^{イチ}水^{ミヅ}入^イる^ルづ^ズ一^{イチ}春^{ハル}也^{ナリ}

ハ九^ク自^ジ出^デる^ルく^ク一^{イチ}心^{ココロ}を^ヲい^イは^ハる^ルも^モ較^{カキ}を^ヲく^ク用^{ヨウ}
と^トぐ^グ一^{イチ}五^イれ^レも^モ較^{カキ}を^ヲよ^ヨき^キを^ヲい^イは^ハる^ル
も^モ較^{カキ}口^{クチ}と^トり^リあ^アく^ク婚^{コン}ふ^フゆ^ユく^ク
駒^{ウマ}を^ヲ下^{シタ}陣^{ジン}砂^{スナ}着^キけ^ケり^リ 菓^{クワ}ハ^ハ原^{ハラ}山^{ヤマ}よ^ヨか^カる^ル
秋^{アキ}父^フ伝^{デン}信^シ日^ヒ光^{クワ}山^{ヤマ}を^ヲい^イは^ハる^ルも^モ出^デる^ル中^{ナカ}も^モ
一^{イチ}中^{ナカ}河^{カハ}川^{カハ}と^トり^リふ^フあ^アら^ラう^ウ出^デる^ルも^モ
中^{ナカ}物^{モノ}と^トり^リ上^{ウヘ}と^トり^リ入^イる^ルも^モ音^ネを^ヲと^トり^リく^クも^モ
文^{フミ}の^ノり^リく^ク一^{イチ}中^{ナカ}物^{モノ}秋^{アキ}物^{モノ}と^トり^リく^クも^モ一^{イチ}月^{ツキ}

未十月おくら出る山
 細きまじりくともさう
 一のさびさかひもあつた
 年く子のさびさかひもあつた
 一とさびさかひもあつた
 らくさびさかひもあつた
 此さびさかひもあつた
 くのさびさかひもあつた



先を振弱とあつた子の内へ
 雄一口はれく
 山弱
 形弱
 野弱
 山弱

小紅の梅... 花の...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

... 内公胡...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...



きこしき サカ 春中 カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ

黄鵪 キ 味同 カ 菓同 カ

まづ カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ

~~~~ カ 中の カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ

英文 キ 岩 キ 中 キ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ

海 キ 中 キ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ

上鵪 キ 味同 カ 菓同 カ

~~~~ カ 秋 キ 中 キ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ

~~~~ カ

鵪 キ 味同 カ 菓同 カ

~~~~ カ 文 キ 中 キ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ

~~~~ カ

小鵪 キ 味同 カ 菓同 カ

~~~~ カ 是 キ 中 キ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ くるく カ

~~~~ カ 弱 キ 味 キ 同 カ

茶鵪 キ 味同 カ 上 キ 味 キ 同 カ



形回カクは又きつつかかへ回すカクは  
大葭オシ荏シ下脚ゲカク七ト粉コ一匁モウ胡桃カク也  
四月シツより出デくク荏シのノ任ニちチ青アヲもモくク八月ハチ迄キ  
云ドヨウ利リ氣キもモくクとト止ト回カクすス  
こコろロをヲ揉ユめメけケてテ又マタ苦クしシ子コ回カクすス  
回カクひヒおオろロ摺スリ脚カクの上ノへヘ急キウぶブよヨとトかカへヘ  
あアらラうウけケてテ

小葭荏 右回り 菓回

記カキしシきキのノどドくクうウてテまマづヅらラきキ面オモまマ  
よヨめメん  
黄キ連レン荏シ 下脚ゲカク七ト粉コ一匁モウ 菓カク原ハ山サン  
緋ヒ連レン荏シ けケりリ  
黄キ連レン荏シとトしシのノ緋ヒ連レン荏シはハ赤アカ牙キバ氣キ  
父イロかカしシとト赤アカ一ヒ尾ビ尾ビのノ足ソク赤アカのノ気キをヲぬヌぐグい  
うウのノ黄キのノ気キをヲ赤アカ連レン荏シはハ尾ビ赤アカもモかカしシ冬フユ  
の内ウチはハ赤アカ連レン荏シはハ赤アカ原ハ山サンのノ赤アカのノ気キをヲぬヌぐグ



そのくまづりカシチカラ一飛カシチカラ度多小カシチカラ似く又多之コメ木の  
 粉の中へキナコ美粉スゴをやー入コりぬー  
 深山画眉ヤニホウジロ多 味ハたのカ類シ白ロりーホ葉シ深シを  
 深山コがシラハ けシみ  
 深山画眉ハ多ハハイ相ロ文ツたのホ類シ白ロのシくシ狗シ小シ思シき  
 羽シをシ目シのシ迫シりシうシ美シのシ羽シをシ大シ狗シ小シ狗シとシて  
 思シをシ強シきシとシりシーシんシきシづシりシくシ面シ心シー  
 深山シがシシシラシとシ相シ文シ回シーシきシづシりシをシ煮シ多シ  
 乃肉シきシづシりシんシ洞シ迫シりシくシうシ鳴シくシんシ氏シ小シ歌シ甲シの  
 相シをシゆシへシカシシシラシダシカシシシとシるシ  
 赤シ列シ多シ 味シ下シ粉シ一シ反シ 葉シハシ木シのシ洞シ少シとシ  
 青シ列シ多シ 小シ列シ多シ けシりシ  
 臥シのシ赤シきシ羽シをシハシ赤シきシもシたシのシ味シハシ小シ列シ多シハシ飛シ  
 小シきシくシ葉シ文シくシくシ白シきシ目シ星シをシ疾シ細シ葉シ小シ入シ  
 くシくシ木シとシ迫シりシくシくシ一シ名シけシりシつシきシ木シつシ  
 きシくシ



脊黒鶴鈴

白鶴鈴

黄鶴鈴

岩見鶴鈴

陣六ト粉一反

菓皆山の箱

岩宮石垣の宮少を脊黒のまに二月中旬より

二月中旬にまきつづる氷くろし白鶴鈴も

かきまきつづるま黄せきハ鈴の中をそは

く黄の思ひさめく白と出さく岩又しりふ

咽小思くハハけの羽をむ黄せきも年と

く耐き付ハ思ひ出さくも一各をくき又

おしくもくき

大喃を 小喃を 陣志る 摺解おけく 妙下

菓ハ深山の世の思ひく 他大をハ摺別大き

一摺解ハけ付付ハ思ひまよと摺交くき

まきつづるも面かき一各 原もくき

五十雀 早雀 アイゼ雀 小雀 非雀

陣妙七ト粉一反 菓ハ何しも深山の木の間を

四十雀ハ近又江戸より行り 五十雀ハ思ひ白

嵐以悪く目尻も悪く形面も一層の丸  
く一名木也、木葉も云日光小多しアイゼン  
ハ山萑小似く若身赤く小萑ハ近互ふく  
山も氷萑ハ後ハ形ワハカクツク

大鴉カワラヒ 小鴉コ 陣栗得鴉ハ鈔下粉一  
巢ハ近互又下多ふかしの枝の尻も小も巢の  
肉ハ大猫の毛と交りゆる大ううハ括別ハ大

きーあまもさづらも養多しーさづらび

子コ 大加鳥オホカトリ 小加鳥コカトリ 目細多メホカリ 陣鈔ハト粉一  
巢ハ大加鳥画眉多の巢ハ卵と身込不き人  
のくくく小加鳥ハ目細多しーしー木の根洞コホラ  
と解ハ大加鳥一カツカウ多し五月以しりるモツハラ

大鴉オホカトリ 朝鮮鴉チヨウセンカトリ 嶠鴉シヨウカトリ 赤鴉アカカトリ 藪鴉ヤブカトリ



解抄九十卷一反  
 粟大野分解抄  
 原山の麓少き山野赤野ハ近五少を垣  
 根式ハ松栲おどの枝ハ他ハ大野ハ松別大  
 くの野のび〜お解ハ海少何〜日野の  
 多ク日光お多〜既の何〜多〜  
 山野〜ハ木も山も〜ハ何〜ハ近五少何〜  
 づ〜〜〜〜〜〜〜  
 野野〜〜〜〜〜〜〜  
 野野〜〜〜〜〜〜〜

赤鶉 青鶉 陣巻じま 粟ハ海山  
 陣ハ麻の裏〜〜〜〜  
 高野の野〜〜〜〜  
 青鶉 思野 陣巻じま 粟ハ海山  
 野〜〜〜〜〜〜〜  
 野〜〜〜〜〜〜〜  
 野〜〜〜〜〜〜〜

ハミづつみーづれも秋後とまゝ〜  
血魚ヘビコウのぬきスカタリ一名もカサノつとカサノ

紅ヘビコウ弱スカタリ 雀カサノ 雀カサノ 雀カサノ 雀カサノ

松スギのシケうウチまマ紅ヘビコウのシケ雄オス雀カサノひヒのメ雀カサノはハ

少コのシケ雀カサノの中ウチ〜トヤ一ヒト雀カサノはハ雀カサノはハ

をオまマづツつツつツつツつツつツつツつツつツつツつツ

大オホ鳴ナリ 小コ鳴ナリ 雀カサノ 雀カサノ 雀カサノ 雀カサノ

巢カサノハハ雀カサノ上ウヘ〜シケ雀カサノはハ雀カサノはハ雀カサノはハ

鳥カサノのシケ中ウチ〜シケ雀カサノはハ雀カサノはハ雀カサノはハ

まマづツつツつツつツつツつツつツつツつツつツ

嶋カサノ 秋アキ多タ 海山ウミヤマ 秋アキ多タ 味アジ 妙タカ 甲カサノ 羽ハ 一ヒト 反サカサマ

巢カサノハハ雀カサノ上ウヘ〜シケ雀カサノはハ雀カサノはハ雀カサノはハ

多タのシケ雀カサノはハ雀カサノはハ雀カサノはハ雀カサノはハ

鳥カサノハハ雀カサノ上ウヘ〜シケ雀カサノはハ雀カサノはハ雀カサノはハ

大オホいイんンなナ〜シケ雀カサノはハ雀カサノはハ雀カサノはハ

秋アキ多タもモ又マタハハ秋アキ多タ〜シケ雀カサノはハ雀カサノはハ雀カサノはハ

百 一

精シユツク 精シユツク 黒精クロツク 茶精チャツク 味妙ニ下粉一匁

菓ハ何レモ山ヤマの洞ウツヲ一匁チヤウニシス

つりやう〜 精シユツクハさづつりか〜 夜ヨハ入

〜 大音オホネ〜 性ケ多タ精シユツク〜 性ケ多タの音ネハ

味妙チヨウの洞ウツニ精シユツク改カヘ小勅コチウ定テイ行ユク〜 精シユツクハ

〜 性ケ多タ精シユツク〜 性ケ多タの音ネハ

味妙チヨウハ似ニ〜 性ケ多タ精シユツク〜 性ケ多タの音ネハ

大音オホネ之茶精チャツク〜 味妙チヨウ之精シユツクハ

シナエ 味妙チヨウ 菓クワハ

一匁ヒトメ茶精チャツク〜 味妙チヨウニ下粉ゲコ一匁

〜 性ケ多タ精シユツク〜

ノジコ 味妙チヨウニ下粉ゲコ一匁

味妙チヨウハ何レモ山ヤマの洞ウツヲ一匁チヤウニシス

つりやう〜 精シユツクハさづつりか〜 夜ヨハ入

味妙チヨウの洞ウツニ精シユツク改カヘ小勅コチウ定テイ行ユク〜 精シユツクハ

味妙チヨウハ似ニ〜 性ケ多タ精シユツク〜 性ケ多タの音ネハ

野原の者一川鳥尾ハ一川畔ハ名野原翠  
くうものめく久くあまきくふくづか一生僻  
少一何さあひび山鳥尾一火火ひきま  
五月は山ト一里ハ出く  
岩雀 萩雀 峠忌ま 野原下粉一反  
巢ハ深山の麓ハ岩ハ雀ハ一秋雀ハ  
少一あまのつづか一あまの歌をうて  
詠ハ一萩雀とていふ

小燕 小アガリ 野原下粉一反 菜味  
山ト一山ト一おづいおもらく一  
多くさるサ 或尺ぐいの籠入くおとさふ  
を御しハ 歌上ハ 雀の如く一  
あまの山アガリもけれく  
老人やなくもおまひ  
セニニウ セツカ 萱ツガリ 萩原野原下粉一反  
ト粉一反セニニウハ野原ト住く







焼鷄卵のきと斗と半分なりと傳山  
 初に割解しと胡桃をか入  
 じとては時ハとて人養多しとて佐世の  
 光とてつとて熱男とて目の廻り  
 似とて毛一尺余とて二年の樹とハ  
 たりとて父とて物とのとて尾も短し  
 目の射とて尾とて熱男の  
 似とて尾とて熱男の

小口信を巢ハ近直とて  
 雌雄羽とてとてとて  
 中一の弱とて之とて切とて  
 鷄 脚ハ七ト粒一  
 巢ハ川端山の中  
 胡桃半分を入  
 葉も下解め  
 粉とて定とて又粉とて

此ハ福さう出ぬしを苦〜〜に捨ぬけられ  
持くびさるゝ回方むづ〜〜も念かい〜〜の  
扱念細ニコカゆれハ差らどよ小何〜〜比ツイフン丈夫ジョブあり  
こめく糸の粒ハ糸か上きの粒ハ結キヌあ〜〜  
細ニコカハあ〜〜何ク付の付ハ舞ルコの肉〜〜何と  
丸ミロ又〜〜虫トヒラン蟬クモガイ〜〜け〜〜む〜〜ハ糸あり  
く紙カミ〜〜〜〜〜〜香カウを〜〜泥ドロを〜〜  
こ上ハ何とぬりハイククモ蟬クモ〜〜付〜〜何トウジ上カミの  
百

街〜〜丸の陣〜〜〜〜〜〜中々〜〜  
こい〜〜〜〜〜〜け〜〜あ〜〜何ヤと約ツル〜〜  
こい〜〜〜〜何イの何イ太セ〜〜〜大何ト〜〜〜〜  
おのの目メゆ〜〜〜〜〜〜〜の〜〜何コの何ニ  
ハ子ホウフ〜〜虫とさ〜〜〜〜〜〜月未二月トキお〜〜  
出〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
田雲雀 タヒナク ビンズイ 何ハ砂三ト粒一反  
馬 集



更ウケ北バ疣ホウ瘡ソウ小コりウのシり

海ウミ燕ツバメ 脚ツノ筋ツバメハトツバメ 梨ヒメツバメ 巢ヒメツバメ 草ヒメツバメ のヒメツバメ

吹フク海ウミ燕ツバメハツバメ 四シ季キのヒメツバメ 八ヒメツバメ 月ツバメ 高ツバメ 一ツバメ 月ツバメ 二ツバメ 月ツバメ 社ツバメ 日ツバメ 小ツバメ

吹フク海ウミ燕ツバメハツバメ 四シ季キのヒメツバメ 八ヒメツバメ 月ツバメ 高ツバメ 一ツバメ 月ツバメ 二ツバメ 月ツバメ 社ツバメ 日ツバメ 小ツバメ

吹フク海ウミ燕ツバメハツバメ 四シ季キのヒメツバメ 八ヒメツバメ 月ツバメ 高ツバメ 一ツバメ 月ツバメ 二ツバメ 月ツバメ 社ツバメ 日ツバメ 小ツバメ

吹フク海ウミ燕ツバメハツバメ 四シ季キのヒメツバメ 八ヒメツバメ 月ツバメ 高ツバメ 一ツバメ 月ツバメ 二ツバメ 月ツバメ 社ツバメ 日ツバメ 小ツバメ

吹フク海ウミ燕ツバメハツバメ 四シ季キのヒメツバメ 八ヒメツバメ 月ツバメ 高ツバメ 一ツバメ 月ツバメ 二ツバメ 月ツバメ 社ツバメ 日ツバメ 小ツバメ

吹フク海ウミ燕ツバメハツバメ 四シ季キのヒメツバメ 八ヒメツバメ 月ツバメ 高ツバメ 一ツバメ 月ツバメ 二ツバメ 月ツバメ 社ツバメ 日ツバメ 小ツバメ

左サ之ノ雄オス桃モモをシカキ一ヒト交マ合ヘてシキキをシ産ウ卵タマゴのタマゴをシ

左サ之ノ雄オス桃モモをシカキ一ヒト交マ合ヘてシキキをシ産ウ卵タマゴのタマゴをシ

左サ之ノ雄オス桃モモをシカキ一ヒト交マ合ヘてシキキをシ産ウ卵タマゴのタマゴをシ

左サ之ノ雄オス桃モモをシカキ一ヒト交マ合ヘてシキキをシ産ウ卵タマゴのタマゴをシ

左サ之ノ雄オス桃モモをシカキ一ヒト交マ合ヘてシキキをシ産ウ卵タマゴのタマゴをシ

左サ之ノ雄オス桃モモをシカキ一ヒト交マ合ヘてシキキをシ産ウ卵タマゴのタマゴをシ

左サ之ノ雄オス桃モモをシカキ一ヒト交マ合ヘてシキキをシ産ウ卵タマゴのタマゴをシ

左サ之ノ雄オス桃モモをシカキ一ヒト交マ合ヘてシキキをシ産ウ卵タマゴのタマゴをシ





柳井

七毛音呼 カ 白音呼 ハク 青海音呼 セイ 遠音呼 トウ  
 荒音呼 アラ のぬーカラシキも白音呼の如く雛と生だ  
 バルケンも音を今あつても人をもとる雛の  
 肉と紅毛鷓鴣 ウツケイ 骨鷓鴣 ホネ も又海りをもとる雛の仕  
 方 ヒナ 雛 カイヤ 畑 シカタ の仕方 コヤ 是 ヘン 外 セン あり テウ 鳥 カク の雛 ク 教 ク く ク  
 し ク 追 ク と ク 後 ク 篇 ク 小 ク 撰 ク 彫 ク と ク 下 ク

諸鳥飼傳百千鳥 終

百千鳥

鳥飼傳

梅井 實三郎

日本橋通を町目

須原屋茂之助

